

2011.01.31「小沢氏強制起訴、直ちに議員辞職しろ！」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今日は1月31日です。先程、小沢議員の強制起訴という報道が速報で入って参りました。ようやく小沢議員が起訴され、幾つかの新聞社からこの問題についてどう思うか取材を受けました。私は検察審査会で起訴されたのは当然の結果だと思っています。むしろ、検察審査会以前に検察の手で起訴されるべきものだと思っておりました。ですから、なぜ検察の手で起訴されなかったのかということも含めて、裁判を通じて検察審査会の皆様方にぜひ追及して証明して頂きたいと思っております。この起訴によって判決がどうなるかという裁判の結果については分かりませんが、小沢議員は裁判の結果に関わらず、政治家を辞めるべきだと思います。今回の強制起訴に関係なく、私はずっと議員辞職するべきだと思っていました。

その理由は、法律に違反したとか違反しなかったとかいう問題ではありません。何度も申し上げておりますが、小沢議員の一連の問題で重要な点は、政治資金規制法に違反したかどうかという点ではなく、今まで小沢一郎という政治家がこの政治資金について、どう弁明してきたかという点です。政治資金の透明化を一番声高に主張してきたのが、この小沢一郎その人だったのです。政治資金を透明化することによって自分達の財産や私腹を肥やさせないようにし、それを担保するために政党助成金や公費助成等を作るべきだと言ってきたの

です。しかし、そう言っておきながら、この人はそれと真逆なことをして、その一部が今回強制起訴されたわけです。これが有罪になろうが無罪になろうが、政治家として言っていることとやっていることがこれだけ食い違っているのは政治家として信用できないのですから、衆議院議員を辞めるべきだと思います。以前からこのようなことは言っていました。今回起訴されたことを受けてもう一度その事を申し上げました。

また、「このことが民主党政権にどのように影響を与えますか」ということも聞かれました。民主党自身にも当然、大きな責任がありますから、けじめを付けるべきだと思っています。つまり、この問題は強制起訴されたから問題になっているわけではないのです。当時はほとんど報道されませんでした。私はこの問題を2年前の3月頃からずっと国会で追及して参りました。当時、野党であった民主党は、この問題について直接的に答えるひな壇に座っていませんでしたから、知らぬ存ぜぬ、で通していました。そして、彼らが与党になってからも、私は何度も何度も小沢議員の問題と鳩山議員の問題を追及して参りました。しかし、この時も彼らはまともに小沢議員の問題を究明しようとは一切しませんでした。当時まだ政党支持率や内閣支持率が非常に高かったのも、この問題を見做しておいてもやり過ごせると踏んでいたからです。だから、いくら私達が追及しても、この問題についてまともに党内で調査をしなかったのです。では、今、なぜこれだけの問題になってきたのでしょうか。それは、この

問題のこともあって民主党の政党支持率や内閣支持率が下がり、今のままでは自分達は立ち行かないため、小沢議員の問題を政倫審で取り上げて説明しようとしたのです。つまり、小沢議員の問題を取り上げた一番の原因は、本当にこの問題が大きな問題だと認識したからではなく、トカゲのしっぽ切りだったのです。政治家として発言してきたことと実際の行動が伴っておらず、政権政党として有権者を裏切ってきたことを断罪しようとして小沢議員排除に動いているのではないのです。自分達の支持率が下がってきたから誰かを叩いて自分達だけを浮き上がらせようという、本当に醜く卑怯な魂胆でこういうことを行っているにすぎないのです。ですから、真実を明かにするつもりであれば、我々が要求している様に予算委員会で証人喚問をするべきなのですが、そのことについては、今も全く応じる気配を見せておりません。従って、この問題は、小沢議員一人ではなく、民主党という政党が自身の問題であるということが出来るのです。

自分達の支持の高い時には強弁するが、悪くなると今度は内紛で無茶苦茶になるという様子からは、自分達の行動に対して反省する意思が全く見えてきません。ですから、小沢議員の議員辞職は当然として、他の民主党議員の方々も責任を当然免れないでしょう。私は民主党に公党としての資格が無いと思っていますから、直ちに民主党を解党するべきだと思っているくらいです。

こうした問題をこれから国会で徹底的に追及して行こうと思っています。

皆様方におかれましても、どうかもう一度この問題の本質、つまりこれから有罪になるか無罪になるかということが問題では無くて、民主党や小沢氏の言っていることとやってきたことが全く違うことが政治家として問題なのだというご認識を頂きたいと思います。今後ともご支援よろしく願いいたします。

ありがとうございました。